国労水戸

国労水戸地方本部
水戸市梅香1-5-24
029-221-4008

発行責任者　大和田亨
編集責任者　坂本公則

最重要課題に全力を

第80回定期全国大会を開催

国労本部は第80回定期全国大会を7月28日～29日、静岡県伊東市で開催しました。大会はＪＲ不採用問題で苦渋の決断をしたが、最終的には当事者の意思決定を踏まえ今大会で終結を迎えたことを全体で確認しました。

そのもとでＪＲ職場の労働条件改善、健全な労使関係と安全・安定輸送の確立・２０１２年春闘、三島・貨物会社及び並行在来線の維持・活性化、アスベスト健康被害対策などの取り組みの成果の上に立って、更なる運動の継続・強化をはかる具体的な方針を確立しました。

また、仕事・安全総点検運動の強化や制度政策要求の実現など山積する現実的諸課題に全力で取り組み、組織の将来を見据え、すべての地方・職場における組織の強化・拡大運動に全機関が集中することについても、真剣な議論が行われ、満場一致で運動方針を決定しました。

組織強化・拡大に全力をあげて取り組もう！

「被災から運動の再出発」について菊池忠志代議員が発言

菊池代議員は、修正動議に反対の意思を表明し代表討論を行いました。

東日本大震災で、全国から支援を頂いたことにお礼を申し上げます。大変困難な状況ではありましたが、全組合員の団結で乗り切って来ました。時間が経過するなかで大震災の大きさに驚いています。水戸支社内では、社員３名と家族含め９名が犠牲となりました。また、公共交通機関も甚大な被害を受けました。そして、現在も収束しない福島第一原発事故で避難を余儀なくされ、職場転勤まで行われるなど、原発事故に憤りを感じます。この様な状況で、７月31日に原水禁世界大会が福島で開催されます。大会成功と脱原発・反核運動拡大に向け参加を呼びかけています。

２０１１年春闘は、リーマンショックから僅かながら景気が見え始めた経済状況で闘われ、しかし３・11大震災で厳しい状況を向かえました。水戸地本は大震災の影響でまったく取り組めませんでした。経済状況は益々冷え込む状況にあります。ＪＲ会社は積極的に賃上げを行い消費拡大を自ら作り出すことが重要です。引き続き共闘との運動強化を進めて行きます。

組織強化・拡大の取り組みは、２００８年から新採対策を実施してきました。しかし今回、大震災もあり新採対策が出来ないとの意見もあったが、社会人採用の中村賢太郎君を加入させました。国労の先輩の姿を見て加入を決意し、自らも加入行動に参加するなど、今後も青年加入への課題を全力で取り組んで行きます。

最後にＪＲ不採用問題について、昨年の９・18茨城県報告集会は約５００名の参加を集約しました。４党による「雇用問題」解決に全力を挙げて来たが、ＪＲ会社側の受け入れ拒否の姿勢に憤りを感じます。闘争団が闘いに終止符を打ったことに、当事者の思いを尊重し24年間の闘いに敬意を表したいと思います。

（詳細は国鉄新聞を参照）

国労本部は、７月２９日、第１回中央執行委員会を開催し、中央執行委員会の成立と当面する闘いの展開について決定したので、以下のとおり指令する。

《指　令》

１．中央執行委員会の成立について

・中央執行委員長　（専）石上　浩一（総括、政治・共闘担当）
・中央執行副委員長　（専）田中　博文（組織部長、法対部長）
・書記長　（専）真子　俊久（企画部長、教宣部長）
・中央執行委員　（専）鈴木　郁夫（総務・財政部長、貨物、組織・共闘担当）
〃　（専）小池　敏哉（業務部長、総務担当）
〃　星野　高志（業務・貨物担当）
〃　栗原　洋実（政治・業務・調査担当）
・会計監査員　内田　昌裕　三宅　明　（専）馬橋　博一

２．当面する闘いの展開について

(1)　各級機関は、全国大会で決定した方針を、全機関・組合員に徹底し、闘いの前進を図ること。
(2)　各エリア・地方本部は、１０月末を目途に大会を終了し、機関整備を図ること。
(3)　職場の労働条件改善、鉄道の安全・安定輸送確立にむけた闘いに全力をあげること。
(4)　期末手当、労働協約など秋季年末闘争に全力をあげること。
(5)　ＪＲ職場の民主化、健全な労使関係を確立する闘いに全力をあげ、組織の強化・拡大を図ること。
(6)　中央闘争委員会を設置する。